

【教育目標】

国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。

【重点目標】

① 次世代の農業を担う意欲の高い学生の確保
② 実践的教育の充実・強化
③ 多様な進路に向けた学生指導の充実
④ 学生の自主活動の活性化

【達成度】の基準

A 目標を上回っている

B 目標通り進捗している

C 目標を下回っている

重点目標：① 次世代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度
＜現状＞ ・平成21年度までは応募者が定員を下回る年もあったが、22年度以降は応募者が概ね定員を超えて推移している。 ・オープンキャンパス参加者の多くは入学試験に応募しており、入学生確保の有効な手段となっている。 オープンキャンパスは年間2回開催 ・普通高校卒業者や非農家子弟の入学者の割合が高くなっており、効率的な募集活動の実施が必要となっている。 ・年々、女子学生の割合が高くなっており、在校生70名の内20名を占めている。	オープンキャンパス、高校訪問、イベント、ホームページなど様々な機会を活用して農大の魅力を情報発信し、高校生等に対する農大への関心を高め、入学志望者を増加する。	＜方策＞ ○年2回のオープンキャンパス開催とオープンキャンパス以外の個別見学者の積極的受入 ○メリハリをつけた学校訪問(学生募集)の実施 - 農業系高校への幹部職員訪問 - 普通高校への訪問 ○広報活動の推進 - オープンキャンパス開催の記者発表 - 県内高校及び市町、農協、普及センター等に学校パンフ・学生募集ポスターを配布 - 農大収穫祭の開催や県民農林漁業祭等イベントへの参加による情報発信 - 新聞マスコミの活用、県市町広報誌等への掲載 - ホームページの一層の充実 最新の在校生紹介コーナーの新設 更新回数の増加 - 農大教育協力員や同窓会による募集協力の推進 ○高校・進路ガイド会社との連携 - 高校進路ガイダンスへの参加 - 高校進路指導職員との情報交換 - 進路ガイド会社が発刊する広報誌への掲載、進路説明会への積極的参加による情報の提供 - 高校の農大視察の受入協力 ○女子学生増加に対応する学生寮の模様替え、女子職員配置の検討	○オープンキャンパスの継続実施 - オープンキャンパスの2回開催 (8月1日・19日) 51名参加(参加者アンケートで7割が農大志望) ○メリハリをつけた学校訪問(学生募集)の実施 - 高校進路ガイダンスで副校長が10校の高校訪問 ○広報活動の推進 - 学校パンフレット・ポスター及び学生募集要項の作成し、市町・農協・普及センター等関係先へ配布 (6月)、農業高校へは訪問説明 - ホームページに学生募集要項を掲載すると共に、トピックスや専攻日誌、夢花菜への出品作物など新しい情報を発信(随時) - オープンキャンパスや、収穫祭を始め、主要な行事や就農研修など最新の情報を記者発表 - 県内農業高校の農業クラブ学生と農大学生との意見交換会(11月20日) - 農大収穫祭の開催(11月15日・16日)、県民農林漁業祭(10月17日・18日)等イベントへ参加して情報発信 ○H27応募者数：55名(推薦23、一般32：女子17) 参考：H25応募者66名、H26応募者：55名	・農業大学校における教育の内容を広く知らしめ、幅広い人材の確保を図ることは今後においても重要であることから、引き続き、効率的、効果的なPRに努める。 特にホームページの利用は、適時に情報提供が出来ることから、一層の活用を図る。 (ホームページ内容見直しやリアルタイムな更新、更新回数の増加など充実を図る) ・教育懇談会を開催 学生の進路決定に大きな影響を与える高校進路指導職員の農業に対する理解を得る。 ・高校・進路ガイド会社等と連携し、高校説明会への出席、高校等の農大視察受入を積極的に行う。 ・マスメディアの活用による情報発信	・農大の存在を知ってもらうことが最も重要であり、今後一層具体的な内容で広報活動すべき ・ホームページを見て、入学してみたいと思わせる魅力が必要 ・普通高校卒業の入学者割合が高くなっていることから、普通高校に対しても農業高校並にアプローチすべき ・意欲の高い学生の確保は永遠の課題だが、入学試験で判断することは難しい。 ・生産基盤のある農家子弟に対しては経営感覚を持たせるなど就農に向けた支援を強化すべき	A 目標を上回っている

＜課題＞

・農業に対する意欲の高い学生の確保

＜指標＞

・オープンキャンパス参加定員確保

・オープンキャンパス参加者の入学志望割合増加

・高校等進路ガイダンス参加10校(全ての要請校に参加)

・入学応募者数：定員40名以上

・ホームページアクセス数前年より増加

重点目標：② 実践的教育の充実・強化						
現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度
〈 現状 〉 - 普通高校出身者の増加に伴い、入学時に学生間の農業に関する知識・技術の格差が拡大している。 - 教育目標・方針に沿ったカリキュラムを編成しているが、教育方法の改善のための学校評価が未実施 - 実習を重視した実践的な教育を行っているが、キャリア教育が不十分 - 資格の積極的な取得を奨励しており、主要な資格には担当職員を充てて濃密な指導を行っている。また、大型特殊自動車運転免許や家畜人工授精師等は授業に組み込んでいる。	農 業 の 基 礎 的 ・ 基 本 的 知 識 を 確 実 に 習 得 さ せ 学 力 向 上 を 図 る。 資 格 試 験 ・ 検 定 試 験 の チ ェ ラ ン ジ 、 合 格 率 向 上	〈 方 策 〉 - 基礎学力向上への取組：1 学年末には農業に必要な計算、文書読解、文書作成を履修 - カリキュラム編成委員会の設置、委員会による教育課程の編成 - 実習計画の十分な検討、計画に基づく実習実施 - キャリア教育を実施（コミュニケーション能力、ペン習字、ビジネスマナー教育） - 農大職員及び、農林水産技術センター研究員の担当する講義科目について、学生にアンケートを実施し、結果を講師毎にフィードバックする。講師は結果を講義改善につなげる。 - 多くの機会を捉え資格取得を奨励する。 - 直売施設（夢花菜）や県民農林漁業祭、収穫祭等での販売体験を通じて、原価計算や経営管理能力を養う。	25 年度から 26 年度にかけて、情勢の変化や就業ニーズに即したカリキュラムへの見直しを行った。 → 農業基礎、農業基礎演習、農業基礎実験に 105 時間の授業を割当て、普通高校出身者の知識・技術のレベルアップを図った。 → 現代実践農業講座として、先導的な農家を講師とした授業を新設 - 野菜専攻では、先端的な野菜栽培技術を学ぶために耐候性ハウスなど新型温室を導入。J G A P 認証取得に向けた農場管理を実践 - 畜産専攻では、試験研究機関と連携して、但馬牛の早期肥育技術に関する飼育試験を実施。 - 就農チャレンジ研修では、有機農業と 6 次産業化に関する新たな研修コースを開設した。 - 大学校同窓会の学生支援の一環として、資格取得奨励事業に取り組み、取得数の多い学生上位 5 名を表彰卒業式で会長から報償授与 - 学業や学習態度が優れている学生に知事賞、校長賞を授与。 欠席、遅刻等がない勤勉な学生に同窓会長賞を授与 - 農大直売施設（夢花菜：毎週金曜日開設）を始め、県民農林漁業祭への出店（10/18.19）や、農大収穫祭（11/15.16）において野菜、花き、果物等の販売実習を行った。	- 農業技術・知識の習得のため、引き続き各種資格取得に向けた支援や意識付けを行うとともに、学生の意欲や習熟度を考慮した実践学習の充実を図る。 - 特色ある学校づくりを推進するため、農業の 6 次産業化や有機農業を含めた環境に配慮した農業などの知識や技術の習得を目指す。 - 学生の進路に対する意識を高め、個々の能力にあわせた情報提供や個別指導を行う。 - ハローワークや人材育成会社と連携したキャリア教育を推進する。 - 職業教育において外部意見を集約・活用する	- 今後一層の産地間競争、グローバル化によって卒業者には販売・流通の知識が求められる。現在の修学期間 2 年間では不十分ではないか - 経営力向上や 6 次化を目指す新たな専攻を設置するなど、現行の専攻体制を見直す農業大学校のあり方を検討すべき 普通課高校に農大のカリキュラム・教育方針をもっと P R すべき	B 目 標 通 り 進 捗 し て い る
〈 課題 〉 - 農業の基礎学力の充実と学生の技能・知識の向上 - 教育目標・方針に基づく実践的な農業教育の実施 - 専修学校として特色ある学校づくりを推進 - 卒業論文課題研究の中に経営的な視点を入れ、厳しい農業情勢の中にたくましく発展的な農業経営を続けるノウハウや信念を養成する必要がある。		〈 指 標 〉 資格・検定試験の合格者・合格割合の目標 - 大型特殊免許（農耕）：卒業時全員合格 - 農業機械利用技能者：7 割合格 - 指導農業機械利用技能者：5 割合格 - 毒劇物取扱責任者：5 名合格 - 危険物取扱者：10 名合格 - 農業技術検定 3 級：全員合格 2 級：7 割合格 1 級：3 割合格 - 家畜人工授精師：畜産専攻全員合格 - 全国発表会での発表、上位入賞 ※ 過去の受検・合格状況から目標値を設定	〈H26 卒業生実績〉 - 大型特殊免許：35/35 (100%) - 農業機械利用技能者：12/16 (75%) - 指導農業機械利用技能者：5/7 (71%) - 毒劇物取扱責任者：3 名合格 - 危険物取扱者：7 名合格 - 農業技術検定 3 級：94% 2 級：40% 1 級：33% - 家畜人工授精師：100% - 全国農大ポ ン ゼ 外発表会での 1 名発表、優良賞			

重点目標：③ 多様な進路に向けた学生指導の充実

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度																			
〈 現状 〉 - 法律に基づく無料職業紹介事業により、進路担当者を定め、個々の学生に対する就職相談・指導に取り組んでいる。 - 非農家出身で生産基盤を持たない学生が増加しており、就農の形態も自営就農だけではなく、農業法人等への雇用就農が増加している。 - 直近5年間の進路決定状況は平均96%であり、就農率は38%、就職率は51%（うち農業関連産業等は39%）で、進学率は7%である。	きめ細かい進路指導、進路希望や活動状況の把握、進路決定のための情報提供 卒業後の多様な進路に対応できる進路指導	〈 方策 〉 ○就職支援活動の強化 - 個人面談を年3回以上実施 - 面接・マナー講座を開催 - 個人情報ファイルの作成、職員の情報共有 - 就農希望者への特別教育の実施 - 青年就農給付金関係の説明会、相談会の開催 - 農業関連企業志望者への特別教育の実施 - 学生からの希望に応じたハローワーク等からの求人情報の収集と、模擬面接会等への参加を推進する。 - 農業生産法人を含む就職対策の取り組み強化	- 個人面談実施 校長1回、就職担当2回、その他専攻・担任による面接を随時実施 - 面接・マナー講座開催 採用試験前の面接練習を随時実施 - 個人ファイルの作成と職員の情報共有 求人者管理票及び求職者管理票を作成し、学生への就職紹介と合否について進行管理。月1回の職員会議や随時開催の教務会議等で職員間の情報共有 - 県農業担い手協議会、各農業改良普及センターと連携した新規就農希望者へのサポート 2年生全員を先導的農家へ40日間の派遣研修インターシップ 卒業生の進路内定（27年3月6日現在）（単位：人） <table><tr><th rowspan="2">卒業生</th><th colspan="2">就 農</th><th colspan="3">就 職</th><th rowspan="2">進学等</th></tr><tr><th>自 営</th><th>農業法人雇用</th><th>農協等団体</th><th>農業関連産業</th><th>その他産業</th></tr><tr><td>35</td><td>2</td><td>15</td><td>7</td><td>7</td><td>1</td><td>3</td></tr></table> ※ 進路決定率100% 就農率：5割 農業関連：9割	卒業生	就 農		就 職			進学等	自 営	農業法人雇用	農協等団体	農業関連産業	その他産業	35	2	15	7	7	1	3	- ハローワーク支援員と連携した就職セミナー開催 - 農業生産法人協会と連携した就職相談会の開催 - J A出資の生産法人への派遣研修	40日間の農家派遣研修は学生宿泊の世話など受入側の負担が大きいため、研修期間の見直しを検討すべき - 卒業者の農業進路決定率は非常に高く評価できる。今後は卒業後3～5年をスパンに就職状況を追跡すべき	A 目標を上回っている
卒業生	就 農		就 職			進学等																			
	自 営	農業法人雇用	農協等団体	農業関連産業	その他産業																				
35	2	15	7	7	1	3																			
〈 課題 〉 - 学生の進路決定率及び就農率の向上を図る。 - 卒業後の多様な進路に対応できる教育活動を実現する。		〈 指標 〉 - 進路決定率：100% - 就農、農業関連企業内定率：80%以上																							

重点目標：④ 学生の自主活動の活性化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度
〈 現状 〉 - 本校は全寮制であるため震災や火災発生時の学生の安全性確保を万全にする必要がある。 - 寮内の整理整頓が不十分であり改善の余地がある。 - 収穫祭や東海近畿地区農業高等学校学生スポーツ大会等の行事運営が、学生の自主的な活動で実施されていない。 - 学生間のトラブル等による学生処分事案が年数件発生する	危機管理マニュアルの更新 学生生活環境の整備改善 社会規範意識を高め、基本的生活習慣の適正化	〈 方策 〉 - 震災、火災時の対応に役立つ防災訓練を消防署の協力のもと防災訓練の実施 - 交通、防犯、防災講座を通じ社会的ルールへの遵守 - 寮生活（自治会活動）を通して社会人としての心構えを学ぶ 講義受講態度、実習取り組み態度 自動車等使用許可、防犯・防災意識 健全な寮生活 - 食育講座開催 給食委員会の開催（アンケート、学生集会） - 学生自ら企画運営する農大収穫祭において販売実習を実施（再掲）	- 地震・火災等の災害時の危機管理マニュアル見直しを実施 - 消防署の協力により学生及び職員参加による避難訓練と消火訓練（5月）、救急救命訓練（2月）を実施 警察署の協力により、交通安全講習会（4月、7月、12月）実施 - 校舎及び寮内での喫煙場所や、寮談話室の夜間使用時間の制限など、学生自治会の自主的ルール化を誘引 寮生活における遵守事項や連絡確認のための自治会集会を開催し、寮内で発生した問題を話し合った。 - 地元自治会との学校周辺環境美化作業や校内環境整備活動を毎月（年間 12 回）実施し、校舎・寮に対する美化意識を醸成 担当職員による寮内環境の定期的な点検、改善指導の実施 - 規則違反や問題行動をとる学生に対し、その都度教務会議で対応を協議、担当職員で情報を共有化し、指導の一体化を図った。 また、問題のある学生に対して個別指導を行い、反省と改善を促した。 - 学校行事（スポーツ大会、農大収穫祭等）を通して、学生間の仲間づくりを進めた。 - 寮の補修箇所の早期発見と補修の実施 - 食育講座（2月）開催	- 学校周辺の環境整備等のボランティア活動拡充 - 地元自治会活動、イベントへの学生自治会としての積極的参加 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現 - 学生の自主活動推進のため外部機関による研修等の実施 - 引き続き学生が企画運営する販売実習を継続し、加工品など販売品目の充実を検討する。	- 全寮制は学生のコミュニケーション能力向上や相手への思いやりを養うことに繋がり、他の学生より礼儀正しいなど評価が高い。 - 寮生活は、規律正しく、食生活面でも保護者として安心できる。	B 目 標 通 り 進 捗 し て い る
〈 課題 〉 - 危機管理体制の構築 - 学生生活指導の充実改善 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現		〈 指標 〉 - 学生活動の年間スケジュールによる計画的執行 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現				